

4 大化改新と律令国家の形成

今回の学習内容はこう理解せよ！

ヤマト政権・推古朝においては、大王が政権の中心にあったとはいえ、有力豪族の政治への関与も強かった。そうした豪族との共治を改め、天皇を中心とした中央集権国家体制を構築しようとしたのが、ここで扱う時期である。中央集権化への動きは、天武・持統朝で完成することとなるが、その完成に至るまでの経緯を押さえよう。

知識を整理

◆大化改新

▶背景

外的要因：中国 = 618年、隋が滅び、が成立

周辺の政治的・軍事的緊張が高まる

朝鮮半島 = 新羅への権力集中が進む

内的要因：蘇我蝦夷・入鹿による専制

留学生・学問僧がから帰国→中国の先進知識や東アジア情勢が伝わる



畿内諸豪族・天皇家の危機感が高まり、官僚制的な中央集権国家の建設をめざし、天皇の下への権力集中をはかろうとする動きが生まれる。

▶大化改新

645年、中大兄皇子と中臣鎌足は蘇我蝦夷・入鹿を滅ぼし（乙巳の変）、大化改新と呼ばれる一連の政治改革に着手

●政治方針：改新の詔（646）

- 公地公民制の樹立
- 地方行政・軍事・交通の整備
- 戸籍・計帳作成と班田収授法
- 統一的な税制の施行

●意義：中央集権国家形成への第一歩

◆天智天皇の時代

▶白村江の戦い

年代	出来事
660年	唐・新羅の連合軍により、百濟滅亡
662年	日本が百濟救援軍を派遣
663年	白村江で、日本は唐・新羅軍に大敗
676年	新羅、朝鮮半島を統一

→日本は朝鮮半島から撤退。以後、国防と国制整備に努める

覚えておきたい

この背景には、唐が日本に遠征することへの恐れがあった

▶天智天皇の政治

- 甲子の宣 (664)：豪族の領有民の設置を認め、豪族を再編成
- 国防の強化：水城・朝鮮式山城の設置
- 近江 ② への遷都 (667)
- ③ の作成 (670)：最初の全国的戸籍

◆皇親政治

▶壬申の乱

天智天皇没後、672年に皇位継承をめぐる争いが勃発

- 対立関係：大海人皇子 (+ 地方豪族) VS 大友皇子 (+ 畿内豪族)
- 結果：大海人皇子の勝利
大海人皇子は天武天皇として即位
- 意義：畿内有力豪族は打撃を受ける
→天皇が絶対的な権力を持つ契機

▶天武天皇の政治

- 特徴：天皇中心の中央集権国家体制をめざす
- 政策：八色の姓やくさ かばねの制定 (684) …豪族を天皇中心の身分秩序に再編成
冠位制の施行 (685) …皇親・諸臣に冠位を授与して官僚とする

▶持統天皇の政治

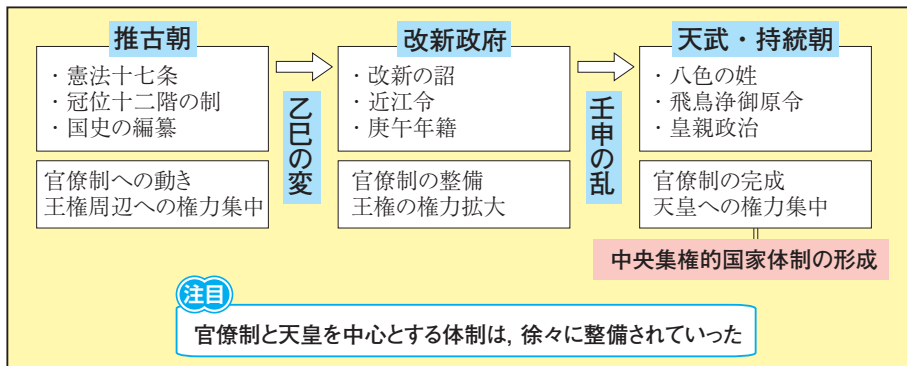
- 特徴：天武天皇の政策を踏襲、中央集権国家の運営を開始
- 政策：飛鳥浄御原令の施行 (689) (編纂開始は天武朝)
④ の作成 (690) …この戸籍により、班田の制度を整備



大化改新以来進められてきた政治改革は、天武朝・持統朝に天皇制と官僚制を軸とする中央集権的国家が建設されたことで、ようやく結実を見た。

図表で知識を再構築

▼中央集権国家の成立過程



空欄の解答

- ① 唐 ② 大津宮 ③ 庚午年籍 ④ 庚寅年籍